

誡潛鑄 十九編



風瓠

虎嵐

聖左

春色

徒流

木尊

花留

永機

泥牛

吳夫

貞江

木髮

雪齊

利牛

貞和

老

灌

英道

貞峨

5
1928
11

七冊之內
貳



1928
11

尚書

秋

乃りけふの夏乃り
の夕茶冬乃り
秋

早り遠りと對ちむ

人し心しとまくに

かゝる毒しあるひ

と

秋

文化の己の所

孫

月
を牛さす

南山堂



木者菴

其角坐 深川湖十

強弱をさす

地名 人名

買を 七作

孫侍

弓馬 更

花巻 更

小舟

を考ふる所

湖の畔に居るのよに中
葉の抱き居るハ早き船やけ
怪紫の花しし入かきり
歌別 水は清林のゆき
魚鳥の中いきりぬ 桜と
二階あり方成道さぬはゆるん
四竹の上よ小鶴のけり
思ひ切る冬い文部へる山
家登り 家二腰の足方
金を立後組日のはる乃色
挑打にかへ 蠟燭の 雨
舟を屋門の 野の白
糸のく雀の 松 蘿
今をのまいよ天飛の色 幕

○イ十九

黄花菴

神教

度性

源平人名

なる山ノ句

買意揚屋葛良大破小破

孫村 步越

大佛 一ノろろ

おしこ

おまてのり
おまてのり
おまてのり

日本

日本の島のころか朝野
物入るの島に... 小丈和為
江戸前志人と後浪宗る船
きり声襤の荷も翅あり
空まきてもいづくの桃葉
山吹や水地の好縁(凍)て
毛(毛)ハ(毛)ふ(毛)線の(毛)ひ(毛)面
水津(毛)一輪白き(毛)白牡丹
赤薬(毛)一輪白き(毛)白牡丹
かつせんやして名代と(毛)夜る
志(毛)まね(毛)淑女(毛)扇(毛)吹(毛)涼
実方(毛)う(毛)う(毛)う(毛)これ(毛)島(毛)の(毛)後(毛)崔
梅も植(毛)つ(毛)い(毛)廊(毛)の(毛)門(毛)松
冬(毛)は(毛)春(毛)自(毛)ぬ(毛)ま(毛)乃(毛)人(毛)心
蠅ニッニッ(毛)小春(毛)の(毛)宵(毛)み(毛)泣
換(毛)れ(毛)や(毛)蛇(毛)の(毛)目(毛)乃(毛)傘(毛)に(毛)換(毛)る(毛)雪

螺窓 深川永機

こたを丸い中よ討(毛)の(毛)右(毛)孟(毛)帽(毛)子
番(毛)う(毛)子(毛)れ(毛)と(毛)進(毛)し(毛)け(毛)る(毛) 蜻
喧(毛)喚(毛)買(毛)ふ(毛)に(毛)腰(毛)入(毛)尺(毛)八
經(毛)基(毛)の(毛)矢(毛)乃(毛)敵(毛)見(毛)入(毛)る
孫(毛)村(毛)益(毛)の(毛)梅(毛)敷(毛)中(毛)と(毛)ま(毛)の(毛)風
二(毛)本(毛)と(毛)い(毛)と(毛)市(毛)も(毛)買(毛)ぬ(毛)り(毛)の(毛)襤
熊(毛)巾(毛)と(毛)花(毛)一(毛)端(毛)え(毛)る
佛(毛)一(毛)所(毛)旧(毛)よ(毛)經(毛)明
岩(毛)角(毛)カ(毛)濃(毛)り(毛)の(毛)枯(毛)つ(毛)ら
孫(毛)晨(毛)の(毛)歩(毛)を(毛)お(毛)ま(毛)の(毛)葉(毛)依
算(毛)代(毛)白(毛)例(毛)よ(毛)白(毛)き(毛)え(毛)花
未(毛)の(毛)汁(毛)代(毛)の(毛)穴(毛)て(毛)く(毛)ふ(毛)船
大(毛)破(毛)や(毛)小(毛)破(毛)列(毛)れ(毛)て(毛)ん(毛)月(毛)船
壺(毛)壁(毛)と(毛)く(毛)く(毛)鬼(毛)乃(毛)打(毛)て(毛)月(毛)船

薄平
富田
高田
高橋
高木
高野
高塚

抄をうつらうきりける傘
時なかりたるどくらふ葵
いゝ京よ二人に言き皆
よ留州候にテる居る懸
佳盛の着給佛ハ英一き
洞乃カ一う軍 足也
宗濂のきなる足あきり寸
横に車のみる乃而得
知登り出果也と奇越
眠らんとすきこわらぬ
急ナ掃一の款にちる
及れん日乃さん待待の款
編り各煤の 乘 死
大佛の市販の中も煤掃
付腰及板ハ八方のきく
かひてん合点掃村益の

犬長者

法弱きものよ
神 衆
人名 生れ
地名 名心
山形 植物
粟を
鄙乃よ業

深川木髪

先欲の在環と入り
大小の魂入きふ
中てふれい
星此竹ハ玉八町
伯山何の萩廓ハ
鬼を名ハ遠ふて子娘
水鳥もねよ外山の
海棠ハ西に梅工
虫賣れ杖と某め
かすくても
月小園のま
常り本町の
宗且ハ
昆鳥此候廓の

イイ十九

物産

白く仕立所産
仕立所産
字様をよ

大尋茶

善哉菴

附山分海之与
わらう古支文
附山分海之与
附山分海之与
附山分海之与
附山分海之与
附山分海之与
附山分海之与
附山分海之与
附山分海之与
附山分海之与

上列地名
伊香保 泰名
利根川 温名
新井 弓削
秋山
水産

狩りもまの葉る仲の獵
きりしと蛙う兒島に渡
摩那と白より海遊る浦
赤葉さけりりり浪成る
網よりおハ 蕨 せき
うらぬ常盤う取上る盤
橋の流をよも 金子首四房
草吹杖と錦 喰ふ馬
鷲飛ぶ元日の時宜
井堰の傍りも命の淵
と食も人と廣くさる
る尾をを舟のせぬ少
松子と松ふは系言も松
村合り 多き 崎 似
一度 契ふと境り 築城

深川老嵐

ふと患れ中てもかたぬ
山鳴る
眠る
山
水
着る
舟
三日
咲
思
花

軍作 買色
但買色軍作
化ふあり

可來菴

法弱たより 竹窓 神杖
植物 海辺
山形 買色
魚 人魚
互作

徒流側 畔 風 帆

は事少のまじり物も沖田路
前不却くしりけく 正直
羞乃乃ゆらくる治巻の音
郭る奏ふ名の依所の羽ふけ
大将のいづつさ、陣の丈草之
亮ふり咲く諸る 左右右
律池を森火のまよあ一はし
標後て多にうけえら魔の未
私とくふ味の矢多智より
大空の控威を集るしりらふ
温泉煙りに昇る伊保乃命女の標
株梁は本出りのまよあふ
金子子肩と心死利 松の吹雪
はしの音りまをさぬま
春柳一不対のそ乃居回 徳妻

あつ 樹くはりよ昨日を指板く
妻く寐る春の松井しき
ほきく人ま果さる吐振り
花いこくしれ飯味ハ江戸
兼好・喰ひをさす 初松真
松系張せハ南 湖 梅 伏
女くくくくのれりよま
魚仁の言大を連れて梅の花
既今今独喰へるも能れ思
あふ名量と男ハ ぬま
あふまぬ後悔改し連退て
臆の動さハ血 塊てな
あつら時人の思葉も信く
あつら時人思る麻よぬし

信天巢

活弱よりす
所わたり方一
下ニ著るは沈台
こゝ合て与他と

西徒流

大木に下るを雪の雪下さ
細くおろすは縁のたさ
盥きりの男とすきふ
人比上器一これの元をても
菊川の香気とを流と
智乃たよ流あて 粧 堂
たよくたまる尼々 徒 流
夕梨のうしろふ水と汲よて
笛吹キと尋る玉柘の里を
水着くれて流く 徒 流
宛尔こもとヤ一と病人のふ
多路の蓋はたつとをキ 不
四にこれ形も山をさるる
をれぬ流と流るる 徒 流

刺控くはむり冷き、旅の末
今よ目上消く 装 徒 流
手よ便に 徒 流
くふ或日唐へ来る船 徒 流
和尚も若芳をさふ 徒 流
美味増と道れと島にた係
志づくくは市川 徒 流
人見知り 徒 流
怪くおろす 徒 流
藤へ下りるとの 徒 流
支思ひに 徒 流
貴さ具 徒 流
情多も二君とくぬ 徒 流
時よまっくは子に 徒 流
たよまや 徒 流
大ぬ流合をむむ 徒 流

計天泉
ふふふふふふ
ふふふふふふ
ふふふふふふ

瓠瓢舎

後箱まろく
連箱方一七
沖秋 世々
左 旃 病 野
山 水 川 辺
ま 水 色
あ け け け
あ け け け

子と妻——か屏の口ゆく
青竹とつらりととるこつ月派
秋の廊下をぬきも又若方
形はたけぬきよる——若と位
おちることしははのこり——壽山
男の秋はそえて告げし星を花
「多し似合ふ股砂小袖の毛落り
地下も同じ——草と流ふ日
兼を破し貝むく形はきき
これより春よ大和路——
傍の山名と名、乃ははれ及
一くくの道大よ煮たり——園付
と——罪をゆるぎしとくぬやん
標名よ清き、やうら——一点
世はよる清き、さきさき日より
流ふて、投ふ、標、原——き

贈答 中 泥牛

女房のまろくしよの七癖の月
を候かせく。鯨や、月
「望の園紙き、月乃は標名
人乃し、お刺な、ふれ——角
「雪向ふて不徳の園、守
「草はよき——涼き、古のさ
「おとこ、さき、く、涙よき、さき、
水り、十の草、は、り、く、中、あ、り
「七を、以、名、ぬ、き、り、込、け、五、六、後
「瓦、焼、の、あ、り、く、く、破、れ、
「隔れ、く、数、五、く、志、う、の
「眠、て、さ、き、
「は、戸、か、き、お、草、の、さ、り、よ、雨、水
「死、ん、て、の、け、い、も、さ、れ、ぬ、は、れ

淡路舎
淡路舎
淡路舎
淡路舎
淡路舎
淡路舎
淡路舎
淡路舎
淡路舎
淡路舎

珠重庵

和きこ方なり
舟とつり方一
教りつ海川の
買色
果糖の白
香
生肌 洗
秋

乾什浪 雪狂座大塚雪齊

悟りたる... 此の境... 川一丸... 舟... 根を伐... 蛇体...

夕高... 友の夜... 川... 門... 舟...

...

雪洞菴

身一跡... 道具... 余八十七十八篇... 遠くとも

神 教
弓馬 及道具
鷹 及道具
江ノ浦 漁翁

池田虎嵐

心... 世の... 細... 胸... 此春... 龍... 風... 為...

泣く女乃居... 二人並く... 枯乃山... 沙羅... 連退... 心を... 砂や... 食も... 木の根...

夢危 不醉を

軍伴

植物 （余りふゆが）

名 （余りふゆが）

油花ト

流のまき （余りふゆが）

月花入 （余りふゆが）

琵琶窓

泣弱 （余りふゆが）
二夕の （余りふゆが）
吹味 （余りふゆが）
舟と細糸味 （余りふゆが）
す （余りふゆが）
附 （余りふゆが）
あり （余りふゆが）
不 （余りふゆが）
箱 （余りふゆが）
箱 （余りふゆが）
標 （余りふゆが）
笑 （余りふゆが）
女 （余りふゆが）

雲回巻

此投 （余りふゆが）
物 （余りふゆが）
い （余りふゆが）
死 （余りふゆが）
日 （余りふゆが）
片 （余りふゆが）
女 （余りふゆが）
困 （余りふゆが）
相 （余りふゆが）
お （余りふゆが）
惟 （余りふゆが）

木道寺

洗 （余りふゆが）
極 （余りふゆが）
指 （余りふゆが）
情 （余りふゆが）
膏 （余りふゆが）
五 （余りふゆが）
は （余りふゆが）

鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣

鶯谷隣

鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣
鶯谷隣

梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向

羽根呉文

梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向
梅の日向

一州

言は
植ゆ虫香虫とい
まふんよのど蚊小
仍りてしし
他の季にははる
白くも物りり

淡谷河

昨非葺

附与中と一段
ぬき淡弱なる
金一月をのり
も兵有買入の
白身古本を
軍師と名ひく
よ指する地を
二心乃名もま
よりちん人をも
是よ水と茶を
原池も
植よの
梅墓
雪
岩魂
石屏

一州

梅よ志しむり一原乃月
きて花火と揚る所沖子
花小笠宗濫いまう流之席
糸以取る車もひとり元踏こき
三里来く咒灸此只一火
今植し神の田小櫛字で
子にせよ洋浪の波とほ
胸揚乃恨と卯杖てニツと
候茶のふに附本れ終りし
ゆさうらゆる曲のふ茶も賣で
矛柳れ泳い乳まの田植益
時鳥あまをてハと傘かして
右浪の尊ぶく魚比泡
秋草に魚く赤き蛇の舌
春風小磯の白いの櫛原町
枯地原あまて

溪利牛

初雛の産婦をさる日の去雨
遠川小喜と隣の夕日彩
実出い軍師きりまの乳の配
岩田若もつてひりス武門
きのふや推ひろいり産を
孝りりすつてて終命衣
撰集も和暗れ城の斤と業
射のなきれとのふす塚一ツ
生更うぬくとき切と珠敷の者
祝素乃胎ゆさまきも女乃子
親のせり口取るる乃くらさ
くや浪を鞠の株以園の氷括り
むやの鼻もま初らわきき
括りめる梅茶もまはな

○ 御 一 冊

二の目此處
交情 女まう
軍中
春木村 藤兵
梅田松日
むくのまね
水之地名

御 一 冊
御 一 冊
御 一 冊
御 一 冊
御 一 冊
御 一 冊
御 一 冊
御 一 冊
御 一 冊
御 一 冊

那 汎 菴

才一三句
一 存 法 寺
軍 作 交 情
名 下 地 名
沖 積 植 物
生 敷 ち じ
鴻 衆
笑 毛 寺
名 々 々 々
白 雲 寺
白 雲 寺

○ 御 一 冊

関へ来て三り一宗種は保るも
指さくらとそも苦肉乃謀
梅小風呂浦かけて嫌排
二挺乃松方も佐々木花系
冬の津田と津すの琴琴
於くひる子よ油へ玉
生るるこく一皮代り此首
用うくくがよ法哉の原
名古曾れ関小是るやむる良
日出るをなゆりゆりま助
世とん破りて是房の
宗甫好之乃ふを長路に
後よ血りも怪なな花系
教舟列傳国乃深津
らるかよ久えの月も集ま

大 塚 英 道

いふぬ神とむりえて来る
蛇體と中ぬす沖一
不自由訓く自由是ふ
政通志ゆりゆを此中
益ををいんと思ふ保
佛 絶 字 永 住 ね 保
ん 利 一 なる 小 様 ね 保
男 三 括 入 安 婆 入 出 入
教 免 け 位 牌 化 人 さ 一 位
女 樹 の け け け 後 の 村
不 々 々 々 分 け 生 捕 と える
除 悟 定 め の 盗 む 復 枕
忌 日 乃 墓 一 ぬ ら する 枕
切 火 の える 聖 廟 の 供 所 檜

正月牛舎

強弱更るべし
分りてりて一

神祇 牛

松 撫轡

大工を具

後の花

かゝる

台アゴの物

古式崩さぬ城の正月
禿舎の地割り流連して置
煎膏に花巻く流路は
親井戸に淀赤流る竹
挑灯小釣流るいて勤化帳
老村ハ仏法流小秋寂く
日蓮も及吐捕モツ秋く
箴乃音多出一神王寺
火代りのやうに牡丹と如乗る
蔓引ケハ益と獲なり鳥尻
廓互ひ罪もむくも後の世も
扱ふ一さ猫股指も氣坂
流と矢のおき言ハあり細島
騎射皇ハ不強と標のまき
大裂る日乃六月も氷の真
桶伏の徳ハ等もれまよ一

裏雪左

く知ぬぬ獲取まし其きを久良
暮比葉の一月くし裏向いて
冬の蠅瓦は他ふ上れ上
治れま言流るりて船す
朝負し管戸と明て流治る家
合点でひきり余茶し悔強奥
裏任ハふ汁兎小市を
椀梁も棟揚まきくの如に死
袋をうくま言示ハ雛に枝家
虫啼や巖城ハ言上秋早
摺墨乃中し言アハ石一ッ
松比を言藤し言りて水乃上
久しあり其石比祈なる言時雨
白奥の灯よくれてハ戸田の言

下子に淫の口へ
居りて
心よ
言ふ
蟬啼
研勝
村り
坊主
秋情
花人
去年
切用

下子に淫の口へ
居りて
心よ
言ふ
蟬啼
研勝
村り
坊主
秋情
花人
去年
切用

空隨庵

一い
謙倉
秋
食
子
令

大塚花箔

は
因
葉
少
蟹
針
化
梅
い
五
忠

金持の目
子 守る
金持
金持
金持
金持
金持

新柿園

一階わたり
笑を人各がけ
あういふ言ひ
言ハ
とくきめ
たぐあし
ははま
はたけい

九十九

牛の鬣中しくもつて悔いす
金持の降る六月の月ある
とくきこと並て古来の月ある
教は世に入る言ひ嘆く梅
未だ見れん七里の遠く
子よ祈りてきて怪業と見る
牛の又入る言ひ言ひ
金持の雨やふてさらん
梅よ来て居ること中の蠅
長久の言ひを金でかふ
馬乃先牛の大小
流流を守り守り言ふ
子げんの不神乃梅折つ
謙倉一えれは言ひは示居

貞江 岸 貞江

海は上をい時と葉
三つふとし内の
障子紙の国の
悟氣のこの地
住業の朝陽
まやしの言ひ
虫千小出す
おぼくや家
三谷と名の
去年の
鞠唄はか
旅人の

淡河新記述
強弱交るなり
言ふは
近上奥州地名
鄙乃凡俗

吾民夫

戸久花はくき巢ハ一ツとの
塩出として居る仲津朝
大難をさる時ハ機乃中
堀け救市目小杖をき
進くくおく先名と持
信りくも死りぬ千両
い何ても悟い女梶系
海る故乃サレをソ程カキケユ
新あやめさく一程比假多
梅壺のく比捨ハ乞虫持
拿くさつても雷形の中
医海ノ掌ノ杖州の志
既依る小舎をさ比捨捨ハ
留さ汁を平ホノ掛ノ人
後日わく能と賣る声
あいら比解わく思懸れる史

山田貞和

強弱交るなり
淡河新記述
言ふは
近上奥州地名
鄙乃凡俗

後ゆ小義もはくくり言の響
馬子の必常ふ合て於れか
らやかく産くお乃九地
秋まよる産りく赤き蛇の舌
のら上りりりく昔も牛島
百日の筑法照くさるす
世はと清き整乃落買
伯母の医業ノ事あり本
鬼とて女樹と猿のちく州
姻愛て方人尺八乃指
伏所きありり荒さ汁体
淀巻く欠く麻一棟
先と吹て底も求めぬ珠
星紅
のけく旭く雷も

方州行九

喜足支

北齊

何と定むる
左具如
賈名 人名
極あ おこ
貞に長あま
遠いあ

欠伸よりくろく 膝ふ 階又
丸竹をすくくの上る三日月
川流さるれば流尾よく不き花
蓮のまれば花よ大の音
梅を合点て 園乃正月
山吹さけく水と何よ馬
さもなきあきり 和借慈よ
傍坐の中へふりり 夜借
むやくと愛を男子廊へ出て
引くはあるめはくけふ宿細
丸葉袋ちよと押てるる
挑灯で流流新る 園に春
撲り車ハ押さぬ 絨
荳にゆく 正 松明 比 庚 将

味固貞峨

先極示と 這入 大門
湯返り不競ふ 文 方 方 古 方
あ 凡 流 して 五 條 と 遊 ぶ
虎 比 尾 と 踏 び 舞 一の ぬ け 石
け け け 津 耳 と 緋 と には なる 是 なる
考 終 上 二 つ を する 比 云 甚 接
い や し い 控 念 と とき ころ 夫 ん と 八
連 返 く せ 八 豆 の 岩 へ
松 後の 下 り する 葉 の中
除 和 の 機 垣 と ち 並 ず 若 者 妻
石 吾 飯 徳 油 と け け け け け
麻 け け け け け け け け け け
牡丹ハ 流 石 中 小 へ 一 路 ぬ け け
な 繁 えて 見 念 路 ぬ け け

古来庵句集 右氏 發句

初稿 右氏側品點頭書出 風井撰

ぬきり 右氏

日 右因

ら 右因

長 右因

あ 右因

野 右氏 發句

櫻台 右氏側品

飾墨 右氏側品

か 右因

古来庵句集 右因著 依原道利

い 右因

俳諧三代集 右氏側品

吾妻童 全扉更鳥列集

雙喜會儀 在博催千句總評 高貞句

柳晋問答 具角去来 誹論撰

俳諧正官薦 平砂側 十歌仙

樓川句集 編口撰

買明句集 寛義撰 述刻

雙後路談 具角坐宗正 墨像系 發句

野 吉門 高貞句集

あ 祇徳高貞 句集

い 江戸平註高貞 退任著

附合高貞部類 右氏側撰

田女句集 上同

俳諧平河 未道撰 示言高貞

正思 俳諧得道解

竟美著

俳諧百集

山俳道

鶏口發句集

同列
句帳

松川

二冊合

きりぎりす

鶏口先生
五十年自記

兩列月並句集

花鳥合

空馬撰
十二歌仙

才營發句集

空馬撰

空馬撰

空馬撰

空馬撰

空馬撰

玉海

松川發句入

花實集

秋色庵野

下七

空馬撰

面

空馬撰

綾錦集

菊園治涼撰
并美印句

全後編

近刻

俳風抄

川柳句合

命年 卷完出版

柳樽拾遺

改著 柳樽

全末摘花

全人万句合本列ノ可矣句ノ

初篇ヨリ三篇出来

万句抄

半抄宗匠万句一古良ヨリ

俳諧百人句

陸馬撰

江戸四天王

初篇ヨリ五篇ヨリ

熱志月並發句集

石眼鏡

露一撰
贈道貝ノ歌仙入

蕉翁渡唐之像

石塚

俳諧百十草

文未竟

同折花集

石橋草堂

同如是俳

在轉宗匠句

同十々佳句

意

遊覽志

龜山寺記

心抄

後集

山東遊覽志

昌黎著

編金沢江島三浦箱根温泉元

近在所名集

武江近在二限々々東海道

全後編

礎

漁著

當時流行

増補俳諧礎

百合花

俳諧百十草

俳諧百十草

俳諧二冊子

白山著

石橋草堂句

百十鳥

園文發句

高判

同十里獨歩

素綾著

自然自得又甚也

同年代記

素綾著

細記

同器新集

得器宗匠

高判

同後編

全上 出来

三篇調出

桑林

岩松著

歌仙發句

俳諧菅茅野

平砂著

聖廟御年四集

俳諧五萬句

得器著

五萬句高判

二見浮文臺記

南山著

南山著

かひ接物の核

南山著

南山著

○靈門俳書類目錄

俳諧句艸紙

牛心著
西入發句

同拔萃

廣天海著
類面之發句

靈門發句帳

同
列之り著

靈句

編
近刻

一陽井素外先生著

鷄談窓藏

梅翁發句集

類句辨

右ノリ類句ヲ並テ
見返キヨウセシセ

江戸川

是ニ蒼狐取取ノ句
前句トシテ貞徳淀川
做ヒ素外中數ノ附句也

五色梅

素外連中梅題發句

古蒼狐
素外拍掌子句

蒼狐席々取取ノ附句ヲヒビ
素外ノ句ニ關リ子句トシテヒビ

一物連歌

室子素外河邊遊居
得念同季同地トシテ
吾摺吟云々

古今七夕發句集

色紙短
尺書ノ人々
ノノノ人

紀行春曼

素外東海道
付來ノ巻地

天狗

酒室ニ對シ
知

手白化

陽井評物
高貞

面貫

素外
事句
高貞

猿筑波集

用合夏句新句
郡分著

俳諧十歌儂

五七五七七
目菴著

同神田集

松山古今
白

能稻社北極

平仙例附合
句下流著

同沖口極

同上
同人集

玉花勝望

七五七七
生小著

東武多少庵俳書月

東嶽山丁竹
星運著
花屋久次郎

鹿島紀行

芭蕉拍真蹟
正岡月門發句著

其葉裏

松籟庵終焉記
百首句仙墨子發句
多少庵北爪撰

心之

松籟庵大無相
鐵葡萄房古岳四季百句并
附台發句

夷江道途

同門四季發句
并月庵遊之撰

續面時鳥

同門報公句并百句
多少庵撰

兒午柏

其林希因
松路麻父涼著
其外兩吟哥仙并發句
遊庵堂紫山子撰

句競秀撰

白達書見用
多少庵秋風
西宮書

柵尾發句集

松籟庵
松山寺門發句

甲子吟行

芭蕉翁真筆
波詩撰

大無發句集

松籟庵

如之木也春

柳居傳系并白象
秋瓜誤

寬政百負多心為句景

同句學後編

...

...

